

意見交換  
～計画（事務局原案）について～



# 1 計画の構成について

## はじめに

- 計画の策定趣旨  
①未来技術の進展、②北海道のこれまでの課題、③新型コロナウイルス感染症の影響、④「北海道Society5.0」の実現
- 計画の位置づけ  
①道の総合計画の特定分野別計画、②都道府県官民データ活用推進計画、③「北海道Society5.0」実現に向けた北海道全体の指針
- 推進期間  
2021（令和3）年度から2025（令和7）年度まで

P.1  
～  
P.5

## 第1章

- 北海道を取り巻く社会情勢  
①新型コロナウイルス感染症の影響、②大規模自然災害の発生、③人口減少問題など
- ICTやAIなど未来技術をめぐる動向  
①マイナンバー制度、②データ利活用の推進、③AIの活用、④5Gの推進など

P.6  
～  
P.22

## 第2章

- 国の取組  
①Society5.0の推進、②デジタル化の推進
- Society5.0の実現に向けた道の取組  
①「北海道ICT利活用推進計画」の取組状況、②「北海道Society5.0構想」

P.23  
～  
P.31

## 第3章

- 「北海道Society5.0」の実現に向けた基本的方針  
基本理念：未来技術を活用した活力にあふれる北海道

### <取組方針>

地域医療や教育、地域交通などの「暮らし」、道の基幹産業である一次産業や製造業、サービス業などの「産業」、まちづくりなどの「行政」の3つの分野を基軸に、各分野横断的視点としての「データの利活用」とそれら全てを支える「基盤整備」の2つの分野を加え、これら5つを施策の柱として取組を展開。

P.32

～

P.34

## 第4章

- 「北海道Society5.0」の実現に向けた施策の展開  
(10年後の北海道の未来社会を見据えた5年間の施策展開)
  - ◎ 新型コロナウイルス感染症への対応も踏まえた喫緊の取組
    - ① 「暮らし」～未来技術を活用して将来にわたり安全・安心で豊かな生活の実現  
(医療・福祉、教育、生活の安全・安心、交通・物流、環境・エネルギー、強靱化)
    - ② 「産業」～未来技術を活用した産業振興と多様な主体の連携による新たな価値創造  
(農林水産業、地場産業、研究開発、観光振興、社会資本整備)
    - ③ 「行政」～未来技術の活用を前提とした仕組みづくり  
(行政のデジタル化、マイナンバー)
    - ④ 「データの利活用」～データの共有と活用の仕組みづくり  
(オープンデータ、データ利活用)
    - ⑤ 「基盤整備」～未来技術を支える社会的・人的基盤の整備  
(情報通信基盤整備、セキュリティ対策、デジタル人材の育成・確保)

P.35

～

P.65

## 第5章

- 計画の推進体制  
（道民、企業・団体、大学等研究機関、行政機関）
- 計画の推進に向けた道の役割  
（規制等の見直し、社会的合意形成の確保）
- 計画の推進基盤  
（産学官連携の推進基盤）
- 計画の進捗管理

P.66

～

P.68

## 参考資料

- 第4章「施策の展開方針」に掲載した「評価の視点」
- 北海道Society5.0の実現に向けて期待する未来技術とSDGs
- 用語解説

P.69

～

P.81

本日は、第4章及び第5章についてご協議いただきたい。

## 2 意見交換の視点

意見交換では、下記4つの点について各委員の専門も交えながら、ご発言をいただきたい。

**1 北海道Society5.0推進計画（事務局原案）全体について**

**2 「暮らし」、「産業」、「行政」の分野について**

～計画の基本となる3つの柱～

**3 「データの利活用」、「基盤整備」の分野について**

～分野横断の柱と全ての基礎となる柱～

**4 計画の推進体制について**

※ 各委員の専門領域も交えながら、ご自由にご発言、ご議論ください。